

現場の保育士から見た長時間保育

「親心を育む会」

調査票作成、分析：掛札逸美

（心理学博士、保育の安全研究・教育センター）

なぜ、今、この研究か

- 「親心を育む会」とは
- 長時間保育の影響は...？
- 科学的データが不可欠。だが、日本にはない^(*)
- 長時間保育の影響を調べるには、大規模縦断(長期)調査、または、子ども集団の比較調査が不可欠
...そのきっかけとなれば
- 保育士は保育の現状をどう見ているのか
- 保育士の中に、どのような認識の多様性があるか
(保育士の中にも保護者が多数おり、多様性があるはず)

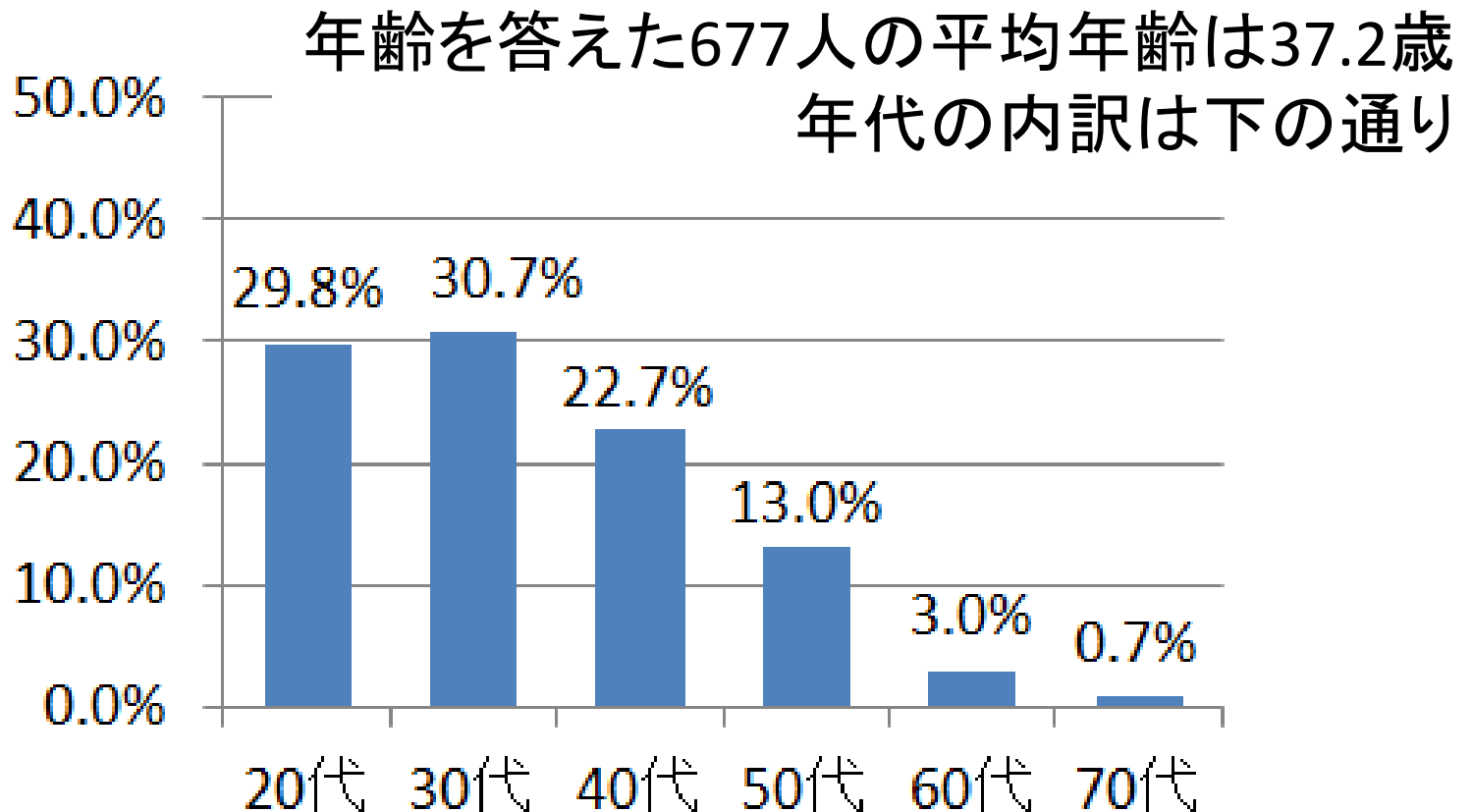
* 米国には、Hazen, N.L 他 (2015) の大規模調査結果の検討がある。この論文の日本語抄訳は、「長時間保育の影響」、http://itsumikakefuda.com/child_long_hour.html

調査方法

- 調査紙(アンケート)を使用
- 調査紙は、問い方(例:誘導)や質問の順序(先入観の植えつけ)による回答の歪みが極力少なくなるよう作成
- 個人を特定できる項目はナシ
- 男性職員の回答を抑圧しないため、性別は問わず
- 「親心を育む会」会員園など、埼玉県内の保育園や小規模保育事業所で配布・回収(都市部から農村部まで15自治体。29私立園と18公立園。公立園は1つの自治体内)
- 調査時期:2016年6月

結果：回答者の概要

- 703人から回答、うち262人(37.3%)が公立の職員



回収に白紙が混ざっており、無効回答なのか白紙なのか不明のため、有効回答率は計算できず

結果：回答者の概要

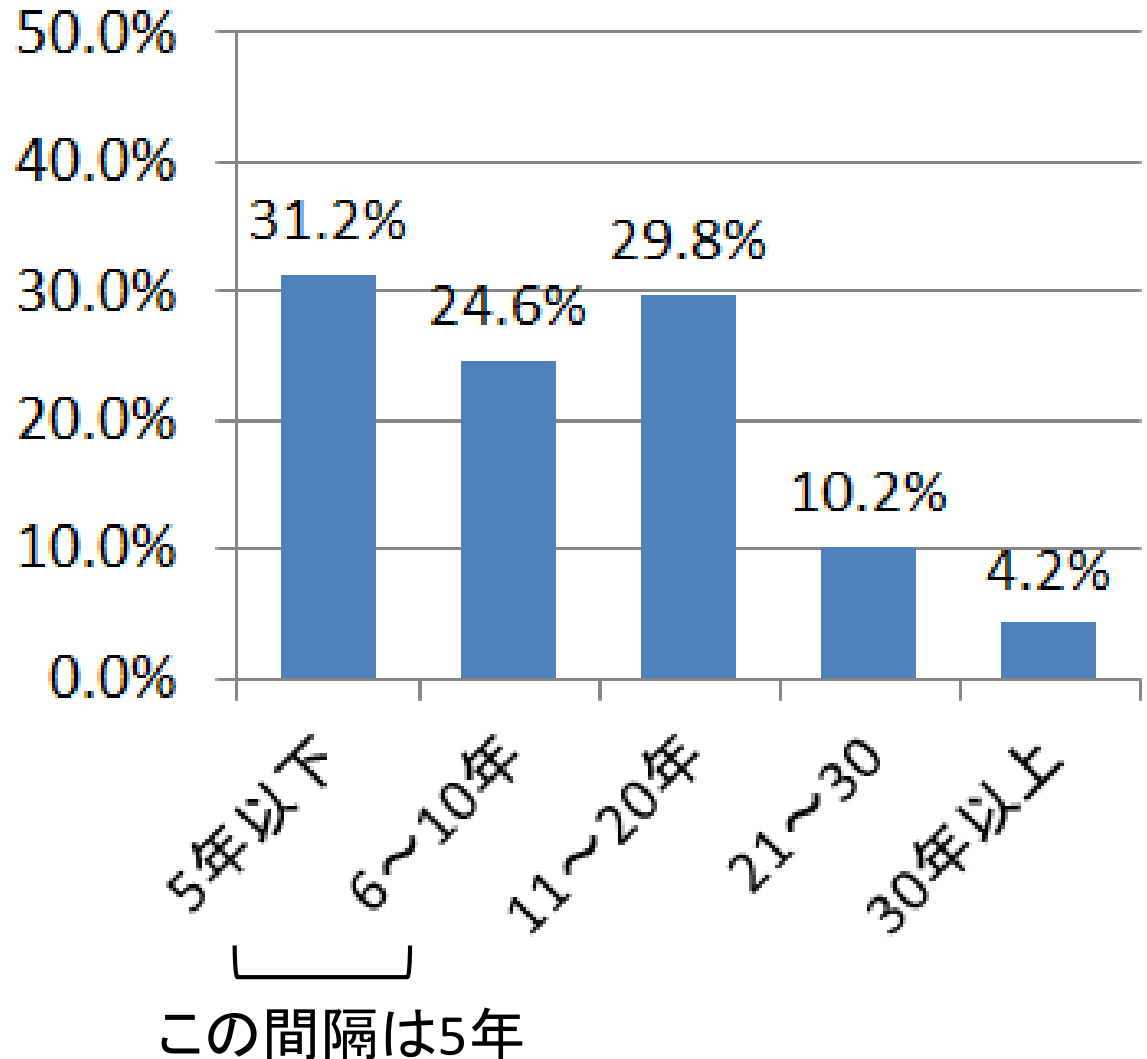
- 86.3%が22歳以下で保育士資格取得(677人回答 ※)
- 73.8%が転職経験なし、21.0%が転職を1度経験(638人回答 ※※)
- 63.2%が正規職員、24.9%が非正規常勤職員、11.8%が非正規短時間職員(687人回答 ※※)

※今回の調査では、保育士資格を有する職員、園長のみを対象としている

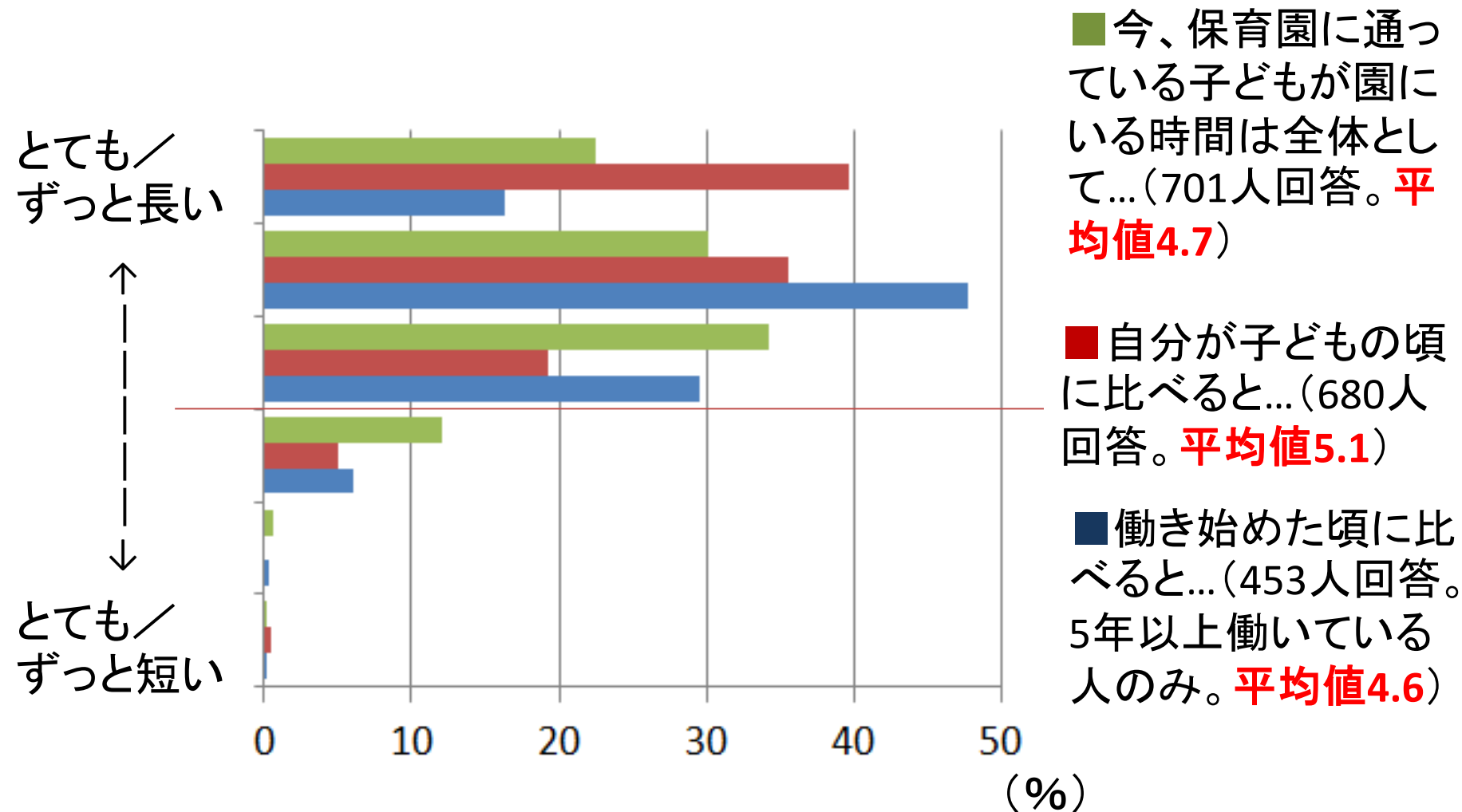
※※ 各園の職員数、職員構成がわからないため、「回答園は正規職員の割合が非常に高い」「定着率が高い」とは言えない。もともと、正規職員(≡定着率が高い層)のほうが回答率が高いであろうから、である

結果：回答者の概要

- 保育園で、
実質働いた
平均年数は
11.4年（638
人回答）



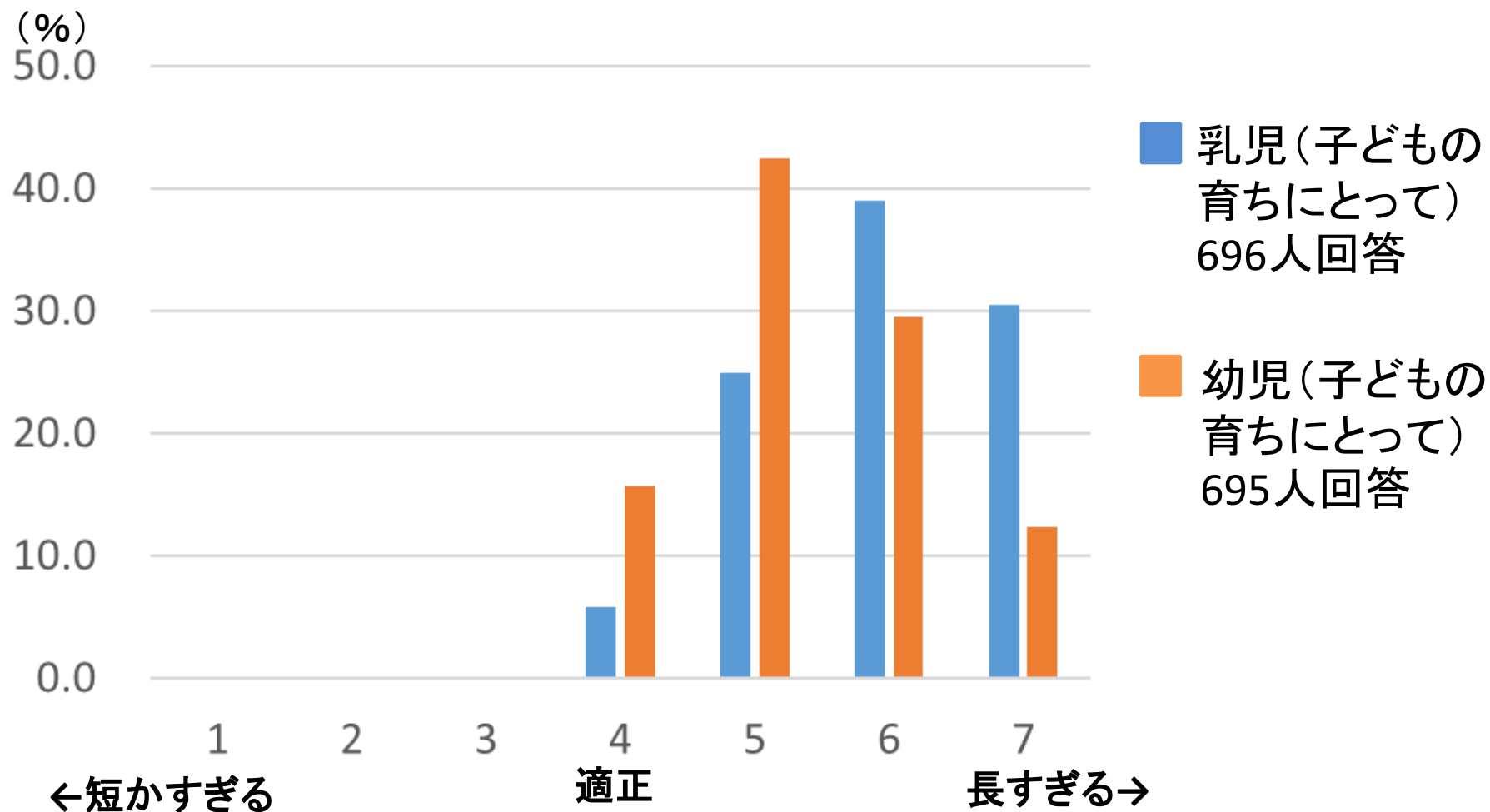
結果：子どもが園にいる時間の長さに対する認識



結果：子どもが園にいる時間の長さに対する認識

- 「今」と漠然と聞かれるより、「自分の子どもの時より」「働き始めた時より」と、比較対象を示されると、認知が変化し、「子どもの時に比べて」明らかに「長い」という認知(3つの回答の平均値は、統計学的に有意に異なる)
- 経験年数や年齢による回答の違いを見ると、5年以上に回答した人たちでは、長く働いているほど、「長くなっている」と回答

結果：子どもの育ちと預けられる時間について

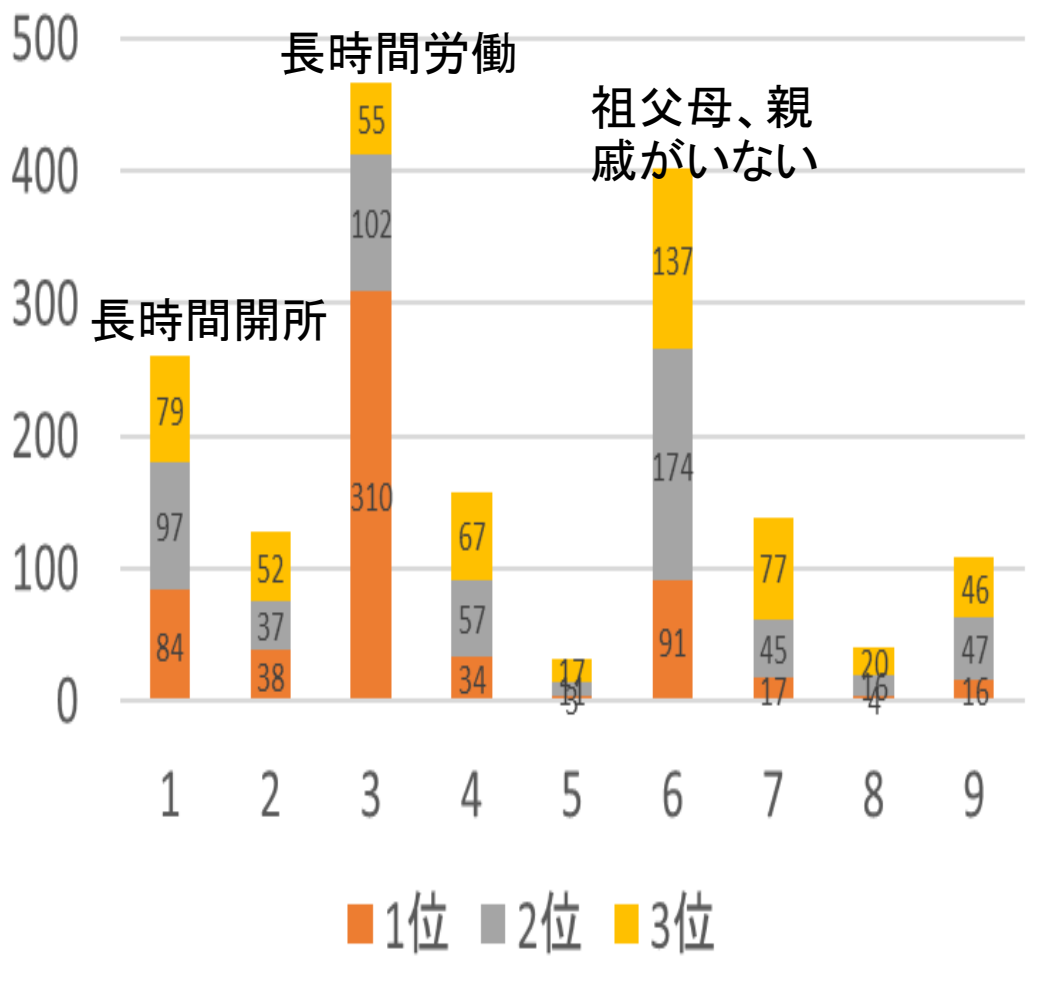


結果：子どもの育ちと預けられる時間について

- 「今、乳児（又は幼児）が保育園に預けられている時間は、全体として子どもの育ちにとって」どうかと質問したところ、大多数の人が「長い～長すぎる」と回答。
- この回答も、回答者の年齢、資格取得後年数、保育士としての勤務年数と相関がみられ、長いほど、「長すぎる」と回答。

結果：保育時間が長い理由

(人。3位まで複数回答)



いずれも「以前より」

1 長時間あいているから

2 預けることは権利だと思っているから

3 長時間働いているから

4 自分の時間を優先しているから

5 子どもに課題が増えたから

6 祖父母や親せきが周囲にいない

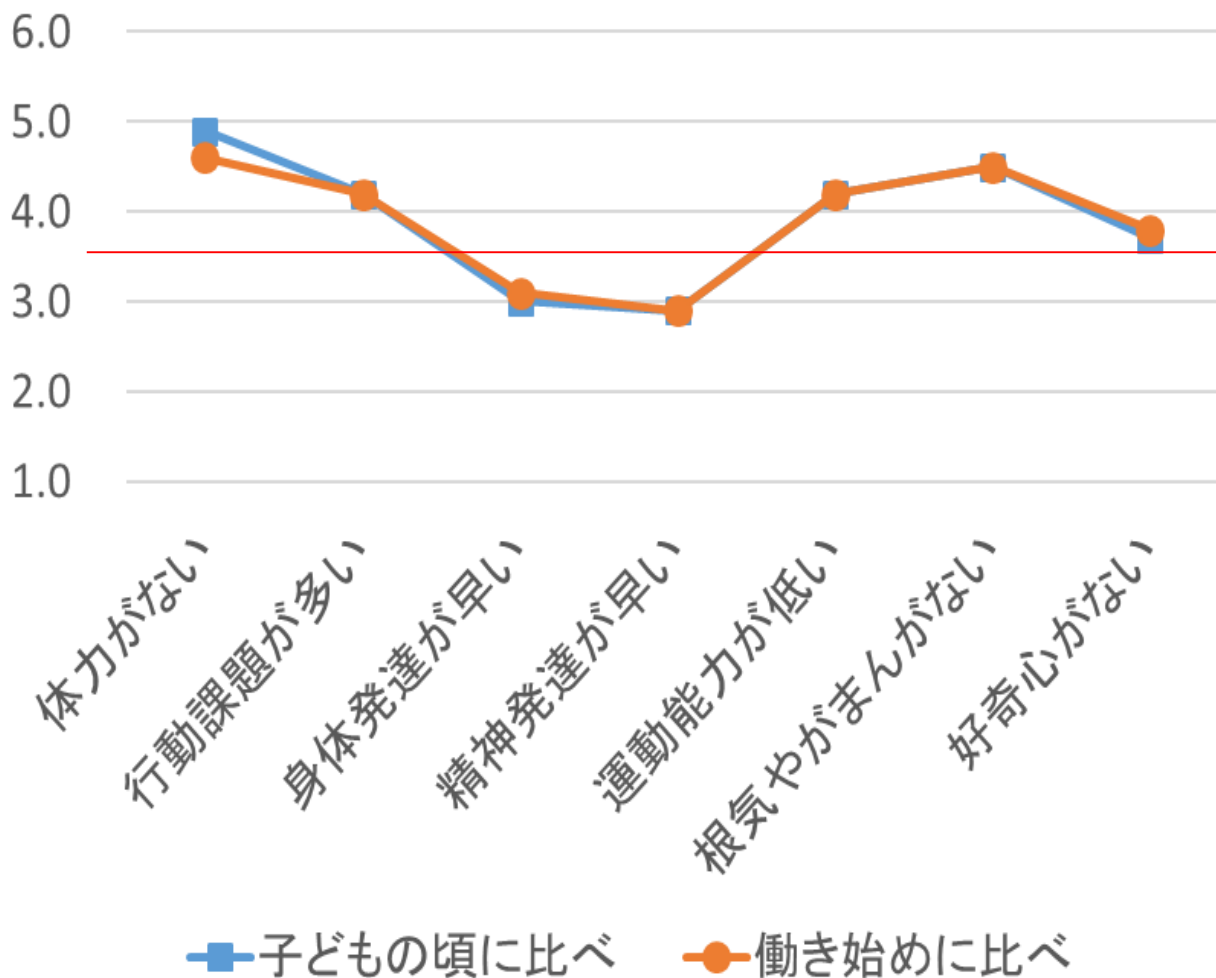
7 生活にお金がかかるから

8 子育てを面倒だと思っているから

9 通勤時間が長いから

結果：今の子どもの姿

(自分の子ども時代、働き始めとの比較)



いずれも中点は
3.5(グラフ中の赤
い横線)

それぞれの回答が、「変化なし=3.5」から統計的に有意に離れているかを検定したところ、すべて統計的に有意。「変化はある」という認知。

結果：長時間保育の理由と子どもへの影響

- 保育時間が長い主たる理由として、「保護者が以前よりも長時間働いているから」「(子どもを預けられる)祖父母や親せきが、以前よりも周りにいないから」が認識されている
- 今預けられている子どもにもすべての項目において「変化がある」と認識されている

考 察

- 実際に保育の現場で保育をしている保育士は今の保育時間を「長い～長すぎる」と感じており、子どもの育ちにとっても「長い～長すぎる」と認識してることが読み取れた
- また、今の子どもの姿に関して、以前と比較して「変化あり」と、子どもの育ちへの影響も懸念する様子がうかがわれる

- しかし、保育士の年齢や経験年数、公立・私立の立場の違いで長時間保育に対する認識が統計学的に有意に違う部分も多数みられた
- 今後、さらにデータの分析を行い、長時間保育を科学的に論じるための基礎データとして公表していきたい
- データの分析報告については、「親心を育む会」ホームページ上にて、逐次公表予定